

新鏡川清流保全基本計画第1次実施計画
計画期間 平成19年度—平成21年度

高知市

本実施計画は、平成18年度に策定した新鏡川清流保全基本計画を具体的に推進するものです。

新鏡川清流保全基本計画は、水は森がつくり、森は地域が創るという水循環の原理に基づき、「川を守るのは森が健康であり地域が元気である」という新たな視点に立って、鏡川を「森と海とまちをつなぐ環境軸」として位置付けし、森づくり、川づくり、人づくり・まちづくりの構想の下、37の施策により鏡川流域の再生を図るもので、平成28年度を実施年度としています。

本実施計画は、37施策の事業化を進めていくもので、計画期間は、平成19年度から平成21年度までの3か年です。

実施計画の体系は、基本計画の体系、全体目標―計画の構成―目標とする姿―ランクアップ計画の位置―施策、に基づく個別事業とし、事業―事業費―事業内容―実施年度―担当部局とした内容としています。

新鏡川清流保全基本計画は、アユの群れなす鏡川を合言葉に、清流のシンボルであるアユが100万尾遡上することを目指しています。

本実施計画で計上した事業費については、鏡川のみ該当する事業費でない場合もあります。

そうした状況の中、本市のシンボル鏡川の清流が守られ、鏡川に大量のアユの泳ぐ姿が見たいものです。

計画を推進する体制

鏡川を管理する高知県は、鏡川水系河川環境基本計画（平成元年度）を策定し、鏡川の環境保全と河川空間の適正利用を進めています。したがって、本計画の推進にあたっては下記のような協議、調整が不可欠といえます。

- ・ 高知県の各課や関係行政機関との協議，調整
- ・ 漁協，森林組合などの関係団体との協議，連携
- ・ 清流ランクアップ活動の主体となる市民との連携
- ・ 市庁舎内での各部課間の調整，連携

鏡川清流保全ランクアップ計画の円滑な推進を図るため、河川管理者等との連携調整体制をつくとともに、鏡川清流保全推進本部や関連する各部局の役割分担や位置づけなどを明確にし、より実践的な推進体制を確立します。

推進組織

1 鏡川流域ネットワーク

(1)目的等

- ① 鏡川流域の状況，情報交換等
- ② 公募による鏡川清流保全基本計画の趣旨に賛同する団体で構成

(2)構成員

- ①市民団体
- ②流域関連団体
- ③企業，NPO

※ 参考 鏡川流域協議会：昭和61年結成（合併で廃止）

県，旧高知市（水道局），旧土佐山村，旧鏡村で構成

2 庁内体制

(1)鏡川清流保全推進本部（本部長：市長，本部員：部長等），幹事会

- ・ 鏡川条例第24条 平成17年度設置

(2)鏡川清流保全推進チーム（関係課課長補佐，係長で構成）

- ・ 平成19年度設置

※ 鏡川清流保全担当専管部署の新設検討

（鏡川清流保全審議会付帯意見（推進組織の創設 例示：鏡川課））。

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

水源かん養の視点に立った管理方針の確立

鏡川の水質と水量の確保という観点から、従来よりも水源かん養機能を重視した森林整備計画を確立し、長期的かつ計画的な森林育成を促進します。

事業名

森林づくり推進事業

事業費

平成19年度 512千円

平成20年度 1,000千円

事業内容

平成19年度に、高知市の森林行政の基本的な考え方をまとめた森林整備基本方針に基づき事業展開を図ります。

① 美しい山河づくり

- ・鏡川源流域の雪光山、焼野の森、梅ノ木ガニ越、新宮の森、中川、工石山、菖蒲の7か所を指定し、美しい山河のイメージアップを図る。
- ・雪光山周辺の市有林を永代にわたり市民に引き継ぐ「雪光千歳の森」として整備。

② 森・川・海の健全な連環回復事業

- ・間伐効果モニタリング等の森林、自然環境の健全化事業
- ・地域資源の活用による中山間地域の自立支援事業

京都議定書の二酸化炭素削減目標値達成が課題で、森林の二酸化炭素吸収機能の果たす役割がクローズアップされており、間伐等の森林経営が二酸化炭素吸収源として位置づけられるため、「低炭素都市」の推進にとって鏡川源流域の森林14,781haの森林整備計画は重要です。

鏡川流域の市有林について、森林施業計画に基づき順次間伐等を進めていきます。

総面積	726ha
土佐山	388ha
鏡	328ha
重倉・久礼野・神田	10ha

鏡川の水質改善には、特に支川の吉原川水系の保水能力の向上、水源かん養機能の増強が重要であり、森林組合やボランティア団体との連携等により間伐促進等による森林づくりを進めます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成25年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

水源かん養の視点に立った管理方針の確立

鏡川の水質と水量の確保という観点から、従来よりも水源かん養機能を重視した森林整備計画を確立し、長期的かつ計画的な森林育成を促進します。

事業名

水源林用地取得事業

水源林整備・管理事業

事業費

平成19年度 18,000千円

4,464千円

平成20年度 18,000千円

4,305千円

事業内容

水源や河川が将来にわたり良好に維持していくため、水源かん養林は重要な機能を有しています。

そのため、天然林を計画的に購入するとともに計画的に整備・管理し、水源かん養林の機能の向上を図ります。

水源かん養林面積：1,199,275.44m²（≒120ha）

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

水道局総務課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

針広混交林の拡大

調査結果から源流域の本来の落葉広葉樹が主体となる区域に植林地が集中し、森林の蒸発散量が増大している恐れがあることが明らかとなりました。また、沿岸の生産性を高めるミネラルは土壌の豊かな森林で多く生産されることが知られています。

源流域を中心に針広混交林の拡大に努め、蒸発散量の抑制と腐植層の豊かな森林域の拡大を図ります。

事業名

針広混交林推進事業

事業費

未定

事業内容

市有林について、伐採後、針広混交林化に向けて取り組みます。

実施年度

平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

下層植生の豊かな森づくりの促進

植林地では樹冠が閉鎖して下層植生が貧弱になると土壌層も貧弱となり、水源かん養機能や土壌保全機能など、さまざまな機能が低下します。間伐は資源としての樹木育成だけではなく、下層植生と土壌層の健全な発達を促し、山を守ることも重要な目的としています。

間伐そのものが目的化しないよう注意し、下層植生と土壌の発達を監視しながら適切な間伐による森づくりを促進します。

事業名

市有林造林事業

事業費

平成19年度 10,000千円

平成20年度 5,000千円

事業内容

市有林の間伐等を行い、豊かな森づくりを進めます。

※市有林806ha（平成18年度末現在）

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

下層植生の豊かな森づくりの促進

植林地では樹冠が閉鎖して下層植生が貧弱になると土壌層も貧弱となり、水源かん養機能や土壌保全機能など、さまざまな機能が低下します。間伐は資源としての樹木育成だけではなく、下層植生と土壌層の健全な発達を促し、山を守ることも重要な目的としています。

間伐そのものが目的化しないよう注意し、下層植生と土壌の発達を監視しながら適切な間伐による森づくりを促進します。

事業名

造林支援事業

事業費

平成19年度 12,452千円

平成20年度 6,899千円

事業内容

民有林の間伐，間伐材搬出，作業道整備に対する補助を行い，豊かな森づくりを進めます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

下層植生の豊かな森づくりの促進

植林地では樹冠が閉鎖して下層植生が貧弱になると土壌層も貧弱となり、水源かん養機能や土壌保全機能など、さまざまな機能が低下します。間伐は資源としての樹木育成だけではなく、下層植生と土壌層の健全な発達を促し、山を守ることも重要な目的としています。

間伐そのものが目的化しないよう注意し、下層植生と土壌の発達を監視しながら適切な間伐による森づくりを促進します。

事業名

森林総合整備事業

事業費

平成19年度 2,400千円

平成20年度 2,400千円

事業内容

民有林の間伐に対する市単独の補助制度（国費、県費補助がある場合、一定の補助率になるまでの上乗せ補助を行うものです）。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

下層植生の豊かな森づくりの促進

植林地では樹冠が閉鎖して下層植生が貧弱になると土壌層も貧弱となり、水源かん養機能や土壌保全機能など、さまざまな機能が低下します。間伐は資源としての樹木育成だけではなく、下層植生と土壌層の健全な発達を促し、山を守ることも重要な目的としています。

間伐そのものが目的化しないよう注意し、下層植生と土壌の発達を監視しながら適切な間伐による森づくりを促進します。

事業名

森林整備地域活動支援事業

事業費

平成19年度 15,500千円

平成20年度 12,550千円

事業内容

森林施業の実施が必要な地域における活動に対して交付金を支給します。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

下層植生の豊かな森づくりの促進

植林地では樹冠が閉鎖して下層植生が貧弱になると土壌層も貧弱となり、水源かん養機能や土壌保全機能など、さまざまな機能が低下します。間伐は資源としての樹木育成だけではなく、下層植生と土壌層の健全な発達を促し、山を守ることも重要な目的としています。

間伐そのものが目的化しないよう注意し、下層植生と土壌の発達を監視しながら適切な間伐による森づくりを促進します。

事業名

協働の森づくり事業

事業費

1, 500千円（平成19年度—平成21年度）

事業内容

環境先進企業と協働で二酸化炭素吸収による地球温暖化防止および水源かん養に貢献する森林の整備を図るものです。

高知県が進めている「環境先進企業との協働の森づくり事業」に基づき、四国銀行、県、高知市で協定を締結し、平成19年度から10年間、四国銀行から支払われる協賛金（年50万円）を活用して、協定森林（市有林）の整備を進めていきます。また、他企業への協定候補地として土佐山地区の市有林の活用を進めます。

- ・ 作業道開設
- ・ ボランティア間伐

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

耕作地の保全

近年、中山間地域での耕作地放棄が目立つようになってきていますが、これらの棚田や畑地は水源かん養に対してもこれまで重要な役割を果たしてきました。

中山間地域の農業支援策を促進し、耕作の継続、再開に努めます。

事業名

中山間地域等直接支払制度

事業費

平成19年度 55,860千円（旧高知市分 国・県・市各1/3，旧鏡・土佐山分
国1/2・県1/4・市1/4）

平成20年度 56,301千円

事業内容

制度を活用し、農業生産活動の継続と地域内外の住民の交流・連携により、農地の管理保全が図られ多面的機能の発揮が期待されるもので、旧高知市、土佐山地区、鏡地区の37の集落協定に基づき、約400haの農地保全を支援していくものです。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

耕作地の保全

近年、中山間地域での耕作地放棄が目立つようになってきていますが、これらの棚田や畑地は水源かん養に対してもこれまで重要な役割を果たしてきました。

中山間地域の農業支援策を促進し、耕作の継続、再開に努めます。

事業名

市民農園貸付事業

事業費

平成19年度 386千円

平成20年度 384千円

事業内容

耕作放棄地対策の一つとして土佐山地区1か所（15区画）、鏡地区2か所（55区画）に市が市民農園を設置、希望者に貸し出しをするものです。

利用者の中山間地域への理解と地元住民との交流も期待されています。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

耕作地の保全

近年、中山間地域での耕作地放棄が目立つようになってきていますが、これらの棚田や畑地は水源かん養に対してもこれまで重要な役割を果たしてきました。

中山間地域の農業支援策を促進し、耕作の継続、再開に努めます。

事業名

就農研修支援事業

事業費

平成19年度 2,400千円（県・市各1/2）

平成20年度 2,400千円（県・市各1/2）

事業内容

遊休農地対策として新規就農者の確保や定着を狙いとして、財団法人夢産地とさやま開発公社が事業主体となって遊休農地の借り入れを行い、新規就農希望者を対象に研修を行うものです。

中山間地域の農業後継者を育成し、中山間地域の農業の衰退に歯止めをかけることを目的として、県の補助制度である高知県新規就農研修支援事業（補助率は事業費の1/2以内）を活用します。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

耕作地の保全

近年、中山間地域での耕作地放棄が目立つようになってきていますが、これらの棚田や畑地は水源かん養に対してもこれまで重要な役割を果たしてきました。

中山間地域の農業支援策を促進し、耕作の継続、再開に努めます。

事業名

中山間農業活性化事業

事業費

平成19年度 4,000千円（県3,000千円 市1,000千円）

平成20年度 4,000千円

事業内容

県補助制度である高知県中山間農業活性化事業（補助率は事業費の1／2以内）を活用するとともに、市として県事業に該当しない取り組みについても、平地とは異なる中山間地域独自の施策の必要性から事業効果が見込める場合、市独自で補助事業（補助率1／2以内）を実施します。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

清浄で豊かな水を育むこと

ランクアップ計画の位置

水源かん養機能

施策名

耕作地の保全

近年、中山間地域での耕作地放棄が目立つようになってきていますが、これらの棚田や畑地は水源かん養に対してもこれまで重要な役割を果たしてきました。

中山間地域の農業支援策を促進し、耕作の継続、再開に努めます。

事業名

- ① 農地保全有効利用事業
- ② 農業経営基盤強化促進対策事業

事業費

- | | | |
|---|--------|-------|
| ① | 平成19年度 | 75千円 |
| | 平成20年度 | 90千円 |
| ② | 平成19年度 | 120千円 |
| | 平成20年度 | 108千円 |

事業内容

- ① 高知県農業公社の実施する農地保有合理化事業業務の一部を受託し、農用地の利用に関する調査や報告・連絡等の業務を実施します。
- ② 本市の農業担い手（認定農業者や集落営農組織等）を育成するため設立された「高知市担い手育成総合支援協議会」を支援し、耕作放棄地の拡大を防止します。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部農業水産課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

沿岸域の生産性を支える森であること

多様な生物をはぐくむ森であること

ランクアップ計画の位置

生物多様性

施策名

天然林のネットワーク化の促進

天然林は野生生物の生息場所として重要ですが、鏡川流域では人工林によって至る所で分断されていることが調査の結果明らかとなりました。しかしながら、一部の人工林を天然林に誘導することで、天然林を効率的に連結することができる場所も多く見られます。

天然林への誘導を図り、野生生物の生息地のネットワーク化を図ります。

事業名

希少野生植物食害対策事業

事業費

県費

事業内容

県が実施する事業を事業により、対策が必要な種の保護を行い、生物多様性の保全を図っていきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

高知県

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

沿岸域の生産性を支える森であること

多様な生物をはぐくむ森であること

ランクアップ計画の位置

生物多様性

施策名

環境保全型農林業の促進

中山間地域の里地には、伝統的な生産様式や農村環境によって育まれた二次的な生態系が成立していますが、現在ではこういった二次的な自然が減少し、ドジョウやメダカなど、そこに生息していた生物の中には絶滅が危惧される種が多くなっています。生物にやさしい環境保全型農林業を展開することは、種の多様性保全に貢献することとなり、また生物を通して清流への関心も高まると考えられます。環境保全型農林業の普及に取り組みます。

事業名

財団法人夢産地とさやま開発公社の支援

事業費

平成19年度 17,470千円（内訳 公社運営費補助13,380千円 土づくりセンター管理運営委託費4,090千円）

平成20年度 17,353千円

事業内容

鏡川源流域の農業の目標として、財団法人夢産地とさやま開発公社が行っている良質堆肥の生産と安心安全を届ける環境保全型農業の取り組みを支援していくものです。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

沿岸域の生産性を支える森であること

多様な生物をはぐくむ森であること

ランクアップ計画の位置

生物多様性

施策名

環境保全型農林業の促進

中山間地域の里地には、伝統的な生産様式や農村環境によって育まれた二次的な生態系が成立していますが、現在ではこういった二次的な自然が減少し、ドジョウやメダカなど、そこに生息していた生物の中には絶滅が危惧される種が多くなっています。生物にやさしい環境保全型農林業を展開することは、種の多様性保全に貢献することとなり、また生物を通して清流への関心も高まると考えられます。環境保全型農林業の普及に取り組みます。

事業名

環境保全型農業推進事業

事業費

平成19年度 1,600千円

平成20年度 3,000千円

事業内容

環境に対して負荷の少ない農業技術の確立とその普及を図るため、本市における環境保全型農業の推進に寄与する技術、機械等の導入に対し支援するもの。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部農業水産課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

豊かな山の暮らしを支える森であること

ランクアップ計画の位置

経済的価値

施策名

管理しやすい森づくりの促進

林道から遠く離れた植林地よりも道路際の植林地の方が手入れが簡単で、管理が行き届くため、良材が生産できて搬出も容易であることから森林の経済的価値が高くなります。

林道や作業道の整備を図るなどして、できるだけ植林地を管理しやすい環境をつくることが重要といえます。ただし、造成する林道や作業道は、森に優しく、崩壊などの危険性が少ないものに限定する必要があります。

事業名

森林整備推進事業

事業費

平成19年度 4,340千円

事業内容

作業道開設に対し補助するものです。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

豊かな山のくらしを支える森であること

ランクアップ計画の位置

経済的価値

施策名

多様な有用材を生み出す森づくりの促進

現在の植林地はスギ、ヒノキという限られた樹種のみを育成しているため、木材価格の動向の影響を受けやすく、環境も単調となりやすい欠点があります。

異なる有用樹種を混植したり、林床を他の資源生産に活用するなど、多様な生産を目指していきます。

事業名

針広混交林推進事業

事業費

未定

事業内容

市有林伐採後、針広混交林化を図るとともに、多様な有用材の植樹を図ります。

実施年度

平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

森づくり

目標とする姿

豊かな山の暮らしを支える森であること

ランクアップ計画の位置

経済的価値

施策名

多目的に利用できる森づくりの促進

森林には、生産、国土保全などの機能以外にも、レクレーション機能、環境教育や社会参加の場としての機能などがありますが、鏡川流域の森林では現在のところ、これらの機能が十分に活かされているとはいえません。

都市との交流・共生を促進し、新たな経済的価値を見いだすことが期待できるよう、森づくりを進め、森林浴や散策、環境教育の場として整備し、多目的に活用できるようにします。

事業名

市民の森整備事業

事業費

平成19年度 1,200千円

平成20年度 26,000千円

事業内容

中山間地域と都市部の交流、水源域の環境保全と再生、森林を利用した環境教育やレクレーションの場として、平成17年12月に受けた「高知市市民の森政治事業検討委員会」の提言に基づき、平成18年度に、雪光山（国見山）、焼野の森、工石山の三か所を「市民の森」として選定。平成19年度庁内に「市民の森整備事業委員会」を設置し、策定した年度別計画に基づき、順次、登山道・遊歩道、トイレなどの整備を図り、利用増進を目指します。

- ・ 駐車場整備（雪光山登山道入り口、平家の滝）
- ・ 平家の滝ベンチ等整備
- ・ 雪光山作業道整備 等

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成22年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

水質管理区域の指定

鏡川清流保全条例による水質管理区域は旧高知市について指定されたものであり，川づくりの具体的目標を踏まえ，土佐山地区，鏡地区を含めた水質管理区域を設定し，水質管理に努めます。

事業名

水質管理区域指定

事業費

—

事業内容

- 鏡川清流保全条例に基づき，第1種水質管理区域を新月橋から上流域全域とし，支川の吉原川水系と本川の砂瀬橋上流域を，特に水源域水質管理区域として水質管理基準値を設定，新月橋から河口までを第2種水質管理区域，神田川流域を第3種水質管理区域に指定し，次の目標値で水質測定を行ないます。

区分	水質管理区域	目標
第1種	吉原川 砂瀬橋上流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適に泳ぐことができる ・ BOD0.5mg/l以下 ・ アメゴが生息する
	鏡ダム—新月橋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適に泳ぐことができる ・ TOC, BOD1mg/l以下 ・ T-N0.2mg/l以下, T-P0.01mg/l以下 ・ ふん便性大腸菌群数100個mg/100l以下(水浴適) ・ 天然アユ100万尾が遡上する
第2種	新月橋—河口	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して泳ぐことができる ・ TOC, BOD1mg/l以下 ・ T-N0.2mg/l以下, T-P0.01mg/l以下 ・ ふん便性大腸菌群数400個mg/100l以下(水浴可) ・ 天然アユが生息する
第3種	神田川流域	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOC, BOD1mg/l以下 ・ T-N0.6mg/l以下, T-P0.05mg/l以下 ・ アユが生息できる

●測定地点 吉原川は毘沙後橋, 砂瀬橋上流は砂瀬橋。

第1種水質管理区域は新月橋

第2種水質管理区域は潮江橋

第3種水質管理区域は神田川橋

実施年度

平成19年度—平成21年度(平成28年度)

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

水源域水質管理区域の指定

「おいしい水」の飲料水源域の水質を保全するため、源流域を水源域水質管理区域として位置づけ、特別な管理を行います。

鏡川下流の水質保全に重要な役割を果たしている支川流域についても、水源域水質管理区域の設定を検討します。

事業名

水源域水質管理区域指定

事業費

—

事業内容

第1種水質管理区域のうち支川の吉原川水系と本川の砂瀬橋上流域を水源域水質管理区域として指定し、「おいしい水」(厚生省)の要件を満たすことのできる水質を保全するため水質管理基準を設定し、水質の監視をします。水質管理基準値は前ページ表。

- ・「おいしい水」要件は以下のとおり。

項目	要件
蒸発残留物	30-200mg/l
カルシウム・マグネシウム等(硬度)	10-100mg/l
遊離炭酸	3-30mg/l
有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)	3mg/l以下
臭気強度(TON)	3以下
残留塩素	0.4mg/l以下
水温	20℃以下

実施年度

平成19年度—平成21年度(平成28年度)

担当部局

水道局浄水課

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

水質保全対策重点地区の指定と施策の集中展開

鏡川の良好な水質を維持するため、汚濁負荷が特に高い区域に施策を集中させることで、効果的に水質改善を図ることが可能となります。

汚濁負荷の大きい重倉川や神田川等の支川流域と鏡ダムを水質保全重点区域に指定し、汚濁負荷削減対策を集中展開します。神田川流域については、下水道普及率24%（面積ベース）をめざします。

事業名

水質保全重点地区指定

事業費

下水道面整備事業費 平成19年度 500,000千円

平成20年度 500,000千円

事業内容

- ・水質保全重点地区（重倉川、鏡ダム、神田川流域、鳥越団地）。
- ・神田川流域の平成20年度下水道普及率（面積ベース）17.5%をめざします。

年度	19年度（%（ha））	20年度（%（ha））
朝倉（612.10ha）	4.2（34.99）	5.9（35.85）
鴨田（376.29ha）	35.3（132.65）	36.4（136.94）
合計（988.39ha）	17.0（167.65）	17.5（172.79）

- ・鏡ダムについては、閉鎖性水域の窒素、リンの栄養塩による富栄養化の原因究明を図り、対応策を検討します。
- ・重倉川および鳥越団地については、市町村設置型浄化槽導入に向け、具体的な調査等を進めます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

建設下水道部下水道建設課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

生活排水対策の推進

生活排水は鏡川の主要な汚濁負荷源であり、鏡川の水質のランクアップを図るため、今後ともその汚濁負荷削減対策を継続していきます。

また、市町村設置型浄化槽の導入に向けて取り組みます。

事業名

高度処理型合併処理浄化槽事業

市町村設置型浄化槽事業

事業費

未定

事業内容

- 平成18年度に策定した第2次高知市生活排水対策推進計画に基づき、汚濁負荷の大きな要因となっている窒素やリンの除去型の高度処理型合併処理浄化槽の導入の推進を図るとともに、単独処理浄化槽設置世帯の早期の合併処理浄化槽への転換促進を図ります。
- 重倉川流域について、市町村設置型浄化槽導入に向け具体的な調査等を行います。

実施年度

平成20年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

工場等の効果的な排水規制の促進

工場や事業所は一般に排水量が多いため、有効な汚濁負荷削減対策が実施されればその効果も大きくなります。

鏡川のランクアップをめざし、今後とも効果的な排水規制を促進していきます。

事業名

排水規制基準

事業費

—

事業内容

鏡川清流保全条例施行規則に定める排水規制基準に基づき対象事業所等を監視していきます（平成19年度 68事業所）。

鏡川清流保全条例施行規則に定める排水規制基準は、以下のとおり。

●新設・増設の場合

項目	規制値（TOC mg/l）
第1種、第2種水質管理区域で日間平均100 m ³ 以上排水の工場等	10（日間平均5）
第3種水質管理区域で日間平均100 m ³ 以上排水の工場等	20（日間平均15）
水質管理区域で日間平均排水量100 m ³ 未満で、汚濁負荷量日間平均2.4kg、最大3.2kg以上の場合	25（日間平均20）

●既設の場合

項目	規制値（TOC mg/l）
日間平均100 m ³ 以上排水の工場等	25（日間平均20）
日間平均排水量50 m ³ 未満で、汚濁負荷量日間平均6kg、最大8kg以上の工場等	25（日間平均20）

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

排水の高度処理化の促進

有機汚濁については浄化槽の普及など浄化施設の整備が進み水質が改善されましたが、窒素やリンについてはその負荷を削減する浄化施設が十分に普及していません。

このため、富栄養化の防止対策は、現時点では必ずしも十分とはいえません。

今後は、窒素、リンの除去が可能な高度処理型浄化槽の導入の検討を行うとともに、土壌浄化や植生浄化など、自然の水質浄化機能の活用も含め、窒素やリンの除去が可能な施設整備を推進します。

事業名

生活排水対策推進

事業費

—

事業内容

平成18年度に策定した第2次高知市生活排水対策推進計画に基づき、汚濁負荷の大きな要因となっている窒素やリンの除去型の高度処理型合併処理浄化槽の導入の推進を図ります。

実施年度

平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

きれいな水であること

ランクアップ計画の位置

水質

施策名

水質の監視

鏡川や支川の水質の監視は、さまざまな施策の効果を確認し、また市民の理解と協力を得るためにも重要であることから、今後とも定期的な監視を継続していきます。

事業名

公共用水域水質測定

事業費

—

事業内容

測定地点	重倉川	長谷橋
	鏡川本川	梶谷橋，中島橋，砂瀬橋，鏡ダム，廓中堰，新月橋，潮江橋
	吉原川	毘沙後橋
	神田川	三ノ瀬橋，神田川橋

※ 水道局測定地点 土佐山地区：多金剛橋，土佐山弘瀬
鏡地区：川口橋

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

水道局浄水課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること
水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること
川の上流，川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

自然環境保全区域の指定

鏡川清流保全条例による自然環境保全区域については，鏡川流域全体を対象に設定し，その保全に努めます。

なお，川づくりの具体的目標を踏まえ，自然環境保全区域の定義を下記のとおり変更します。

●自然環境保全区域定義

鏡川本川やその流れと一体となって，もしくは流れの区域と連携して生態系を形成する区域のうち，下記に該当する区域

- ① 鏡川の水量を確保し，良好な水質を維持するために必要な区域
- ② 貴重な動植物などが生息・生育する区域
- ③ 鏡川の自然環境として特性のある区域
- ④ その他良好な自然形態を有していると市長が特に認める区域

事業名

自然環境保全区域指定

事業費

—

事業内容

自然環境保全区域定義に基づき，新鏡川清流保全基本計画基本構想策定業務報告を踏まえ，平成20年度に鏡川清流保全審議会の審議を経た上で地域指定をします。

※ 指定候補地

工石山さいの河原，菖蒲洞，高川溪谷，山姥の滝・ゴトゴト石，穴の谷峡谷，大穴峡，樽の滝，吉原溪谷，吉原白石石灰地植生，狩山川内神社，夫婦岩，的瀧川熊野神社周辺，竹奈路川内神社周辺，平家の滝，柿ノ又川内神社周辺

※ 現行

七ツ淵神社周辺，川上不動尊周辺，岩ヶ淵周辺，朝倉神社周辺，石立神社周辺，山内神社周辺，筆山)

実施年度

平成20年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること

水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること

川の上下流，川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

貴重動植物の保護

鏡川やその沿川で貴重な動植物の生息が確認された場合には，その保護対策を検討し，実行します。なお，ここでしめす貴重な動植物とは下記に該当する種もしくは固体とします。

- ・天然記念物
- ・わが国もしくは高知県で絶滅が危惧されている動植物
- ・もともと生息数が少ない希少な動植物や環境の変化に対して脆弱な動植物で，保護する必要があると考えられるもののうち市長が指定するもの

事業名

貴重動植物の保護

事業費

未定

事業内容

関係機関・関係団体等と連携し，保護対策に取り組みます。

- ・サンショウウオ（工石山）
- ・ヤイロチョウ
- ・コアマモ，イセウキヤガラ，エゾウキヤガラ，タコノアシ（下流域）

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること
水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること
川の上流、川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

河川生態系の保全対策の促進

現在鏡川に生息している動植物のうち、鏡川に本来生息している種を保全し、資源量を安定的に維持していくために必要な環境整備を行います。

また、産卵場の造成・絶滅危惧種の保護や外来種の駆除などをはじめとして、在来生物の資源維持に必要な維持管理を継続します。

事業名

アユ遡上・流下調査

事業費

平成19年度 1,470千円

平成20年度 1,950千円

事業内容

天然アユ100万尾の目標達成のため、回遊性の一年魚であるアユの生態系の実態を把握するとともに遡上や流下を阻害する要件等を探り、増殖に必要な条件を検討するための調査を行います。

※平成17年・18年のアユ遡上・流下調査で、アユ22万尾が確認され、うち76%が天然アユであり、朝倉堰から下流で5か所のアユ産卵場を確認、新月橋で日量最大270万尾の仔アユの流下も確認されました。

※平成19年度調査では、支川吉原川を含めアユ28万尾を確認、うち57%が天然アユでした。朝倉堰・江の口鴨田堰・鏡川堰・廓中堰の4堰のうち朝倉堰と廓中堰がアユ遡上・流下の大きい阻害要因と明らかになりました。

※平成20年度重点事業（朝倉堰簡易魚道設置・河川構造物試験的対応）

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること

水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること

川の上下流，川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

河川生態系の保全対策の促進

現在鏡川に生息している動植物のうち，鏡川に本来生息している種を保全し，資源量を安定的に維持していくために必要な環境整備を行います。

また，産卵場の造成・絶滅危惧種の保護や外来種の駆除などをはじめとして，在来生物の資源維持に必要な維持管理を継続します。

事業名

アユ産卵場整備

事業費

民間活力活用

事業内容

鏡川アユ100万尾の目標達成のため，鏡川トリム公園近辺にある産卵場所の砂利の整理等を，市民ボランティアにより実施します。

※高知県友釣連盟，三木会（旭地区土木業親睦団体），旭地区町内会連合会等によるボランティア活動で実施。

実施年度

平成19年度～平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること
水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること
川の上下流，川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

河川生態系の保全対策の促進

現在鏡川に生息している動植物のうち，鏡川に本来生息している種を保全し，資源量を安定的に維持していくために必要な環境整備を行います。

また，産卵場の造成・絶滅危惧種の保護や外来種の駆除などをはじめとして，在来生物の資源維持に必要な維持管理を継続します。

事業名

淡水魚増殖事業

事業費

平成19年度 3,500千円

平成20年度 3,500千円

事業内容

鏡川水系における魚類の資源増殖と内水面漁業の振興を図るとともに，魚類をはじめ水生生物の生息できる環境づくりの一環としてアユ種苗等の放流を実施するもの。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部農業水産課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

河川とその沿川の生物の生息環境が特に良好であること

水中および陸上生物の繁殖に適した自然環境であること

川の上下流，川と森の連続性が良好であること

ランクアップ計画の位置

自然環境

施策名

自然環境の再生事業の促進

鏡川に本来あった環境や生態系の再生を目指し，健全な生態系の形成に必要もしくは有効な環境を整備していきます。

事業名

サンショウウオ保護事業

事業費

平成19年度 400千円（高知よさこいライオンズクラブ・毎日新聞社助成金）

事業内容

源流工石山さいの河原に生息するサンショウウオは，貴重な両生類で，生息地が登山道に位置しており，生息条件が悪化しているため，登山道迂回工事を実施，生息地の保護に取り組みます。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

健全な生態系を象徴する景観であること

鏡川らしい美しい風景，歴史的景観であること

ランクアップ計画の位置

景観

施策名

景観形成区域の指定

河川管理区間内における市民ニーズの実現のため，河川管理者等と協議し，景観形成区域を指定・整備を検討します。

朝倉堰から下流は高知市街の中心部を流れることから，清流を軸とした良好な景観の形成は都市のイメージアップに直接つながります。

このため，当区間を景観形成区域の候補地とし，具体的な指定内容（区間，区域）を検討します。

なお，景観形成区域の定義を下記のとおり変更します。

●景観形成区域定義

鏡川やその支川の流れと一体となって歴史的，文化的，伝統的もしくは自然度の高い景観を形成している区域。または，景観整備によってそれらの景観を再現することができる区域。風景の構成要素が鏡川から離れている場合には，両者に挟まれた区域を含む。

事業名

景観形成区域指定

事業費

—

事業内容

朝倉堰から下流域について，河川管理者の高知県（河川課）と景観形成区域の指定について協議していきます。

実施年度

平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

川づくり

目標とする姿

健全な生態系を象徴する景観であること

鏡川らしい美しい風景，歴史的景観であること

ランクアップ計画の位置

景観

施策名

景観形成対策の促進

景観形成区域に指定した区域において，景観整備や景観の改善対策を実施します。

ただし，川づくりの具体的目標を踏まえて，形成をめざす景観は，健全な生態系を象徴するもの，地域の歴史的，伝統的文化景観に該当するものに限定します。

事業名

水車復活事業

事業費

5,000千円

事業内容

高知市山村振興計画に基づき，鏡坂口地区にかつて粉引き等で活躍していた水車を復活し，併せて棚田のある日本の原風景のイメージアップを図ります。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

清流保全活動

施策名

清流保全活動の継続的な実施

市民が鏡川に関心を持ち、鏡川の環境保全などに参加できる機会を企画し、実行していきます。

この企画・実行は、行政よりもむしろ市民が中心となって実行されることが望ましく、そのための働きかけを行っていきます。

事業名

清流保全活動

事業費

民間活力活用

事業内容

環境活動支援センターえこらぼ、こうち森林救援隊等のボランティア組織と連携・協力し、清流保全活動の支援等を行っていきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

—

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

清流保全活動

施策名

鏡川をめぐるなかまづくりの推進

鏡川の環境保全や鏡川を舞台にしたさまざまな活気ある活動を行うグループを結成していきます。

グループの結成は市民が自発的に行うことが望ましく、そのための社会的環境の醸成に努めます。

事業名

交流人口の拡大と地元組織の育成支援

事業費

0円

事業内容

鏡地区のツーリズム研究会や土佐山地区中川を良くする会、本物を食する会などの実施する事業の支援と中山間全域のさまざまな交流事業をつなぎ合わせ、活動の輪の拡大に努めます。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

清流保全活動

施策名

鏡川をめぐるなかまづくりの推進

鏡川の環境保全や鏡川を舞台にしたさまざまな活気ある活動を行うグループを結成していきます。

グループの結成は市民が自発的に行うことが望ましく、そのための社会的環境の醸成に努めます。

事業名

鏡川流域ネットワーク

事業費

民間活力活用

事業内容

平成20年度重点事業

鏡川流域の鏡川漁協や森林組合等関係団体、「こうち森林救援隊」・「四銀森林サークル」等ボランティア団体・NPO、企業等で構成するネットワークを立ち上げ、「交流・連携・共生」による循環型流域圏の構築をめざします。

※平成19年度、こうち森林救援隊が窓口になり、TOTO株式会社が社会貢献事業の一環として行なっている「TOTOどんぐりの森」事業を土佐山地区で実施予定です。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

環境保全に関する啓発

鏡川の環境保全の必要性や意義を市民に周知し、鏡川に関心をもってもらうための広報活動を推進します。

事業名

鏡川啓発活動

事業費

—

事業内容

イベントや広報媒体を通じて鏡川に関する広報活動を展開していきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

※参考・鏡川流域駅伝大会（平成18年度 1,450千円）

新鏡川清流保全基本計画の策定を記念し、清流鏡川を広くPRするとともに、併せて、平成17年1月の土佐山、鏡との合併の合言葉である「交流・連携・共生」を具体化する事業として、平成18年3月25日実施、高知商業高校から鏡庁舎、オーベルジュ土佐山を通り、ふるさと林道を抜け、工石山青少年の家をゴールとする27.7km、標高差1,000m、最大傾斜17%の山岳駅伝で、当日、33チーム231名が完走しました。景品もすべて地場産品を使用し、地産地消で地域振興にも一役買いました。

・鏡川フォトコンテスト

鏡川の清流をPRする目的で平成19年度実施。

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

環境保全に関する啓発

鏡川の環境保全の必要性や意義を市民に周知し、鏡川に関心をもってもらうための広報活動を推進します。

事業名

ホームページ開設

事業費

—

事業内容

鏡川清流保全に関するデータ等を公表し、活動の支援を行います。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

環境教育の推進

将来を担う子供たちはもとより、さまざまな世代や職種の人々を対象に環境学習会を開催し、「鏡川を知る・学ぶ」機会を提供します。

事業名

源流工石山の自然探訪

事業費

平成19年度 451千円

平成20年度 660千円

事業内容

工石山シャクナゲ探訪などを行い、鏡川源流の自然に親しんでもらい、青少年の健全でたくましい心身を育むとともに環境保全の重要性の啓発に取り組んでいきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

教育委員会青少年課工石山青少年の家

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

環境教育の推進

将来を担う子供たちはもとより、さまざまな世代や職種の人々を対象に環境学習会を開催し、「鏡川を知る・学ぶ」機会を提供します。

事業名

環境学習

事業費

未定

事業内容

平成16年度から実施の「高知県こうち山の日推進事業」で希望する学校が、間伐材等の森林保護活動の体験学習や森林と水の関係の学習などを実施して来ています。

平成20年度からは、「高知県山の学習支援事業」を活用し、実施します。

総合的な学習の時間等で、環境をテーマとしている学校で鏡川に親しみ、地域の自然の恵みを知り、その環境を守っていくために、地域に提案する学習を実施しています。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

教育委員会学校教育課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

環境情報の提供

市民が効果的で正しい環境保全活動を継続できるよう、鏡川の環境に関する調査・監視を継続し、その情報を公開していきます。

事業名

鏡川紹介コーナー

事業費

—

事業内容

高知市広報「あかるいまち」や高知市ホームページ等で情報を公開していきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

森・川づくりを支える担い手の育成

川や森を守る具体的な技術や伝統的な技術を学ぶ機会を創設することなどによって、森・川づくりの担い手を育成します。

技術研修などの企画に参加しやすくするための助成制度を検討します。

事業名

担い手育成

事業費

—

事業内容

財団法人夢産地とさやま開発公社の行う就農研修支援事業や「中山間農業活性化事業費補助金」制度などによる担い手づくりの促進を図ります。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

活動助成制度の検討

活動のための器具の購入や傷害保険の費用をまかなうことで、グループの結成や活動の継続がしやすくなります。

鏡川の環境保全につながる活動への助成制度の創設を検討し、グループの結成や活動の継続を後押しします。

事業名

公益信託高知市まちづくりファンド

事業費

—

事業内容

平成15年度に四国銀行に3,000万円出捐し設置。

高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にしていくために行うまちづくり活動（自然環境保全や住環境の整備等）を対象に、公開審査を経て助成するものです。

- ・「まちづくりはじめの一步コース」 上限5万円
- ・「まちづくり一步前へコース」 上限30万円（総事業費の3/4以内）
- ・「まちづくり大きな一步コース」 上限300万円

四国銀行に信託し、市民活動サポートセンターにより運営しています。

実施年度

実施中

担当部局

市民生活部まちづくり推進課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

活動助成制度の検討

活動のための器具の購入や傷害保険の費用をまかなうことで、グループの結成や活動の継続がしやすくなります。

鏡川の環境保全につながる活動への助成制度の創設を検討し、グループの結成や活動の継続を後押しします。

事業名

企業の社会的貢献事業の紹介

事業費

—

事業内容

企業の社会貢献事業（CSR）により行なわれる基金制度を活用することにより、活動資金を確保するものです。

インターネット等の検索，必要に応じ適宜紹介します。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

—

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

アドバイザー制度の創設

科学的な知見に基づいた保全活動やスムーズなグループの結成，活動の継続をアドバイザーできるアドバイザー派遣制度を創設します。

事業名

アドバイザー

事業費

民間活力活用

事業内容

環境活動支援センターえこらぼなどと連携し，NPO 等に対応するように進めていきます。

実施年度

平成21年度

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

行政間の柔軟な連携体制の促進

鏡川の河川管理は高知県が担当しています。このほか、流域に関する施策はさまざまな行政機関や部署が関係しています。

これらの行政機関の担当者が互いに情報を交換し、施策を調整もしくは協調する体制を構築し、効率的な施策がスムーズに実行できるようにします。

事業名

鏡川流域協議会

鏡川清流保全推進本部会

事業費

—

事業内容

鏡川清流保全の推進体制として、市や河川管理者の高知県等で構成する協議会を設置し、取り組みを進めていきます。

平成17年度に、新鏡川清流保全基本計画の策定のために設置した、市長を本部長に部長等を本部員とする新本部体制で取り組みを強化していきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

市民による活発な清流ランクアップ活動が展開されること

ランクアップ計画の位置

支援のしくみ

施策名

森林施業のための財源の確保

現在の財政規模では、森林の適切な管理を促進するために必要な事業を必要なだけ実施することは難しい状況です。

水源税の創設や民間活力の導入など、新たな財源確保の方法を検討します。

事業名

水源税

事業費

—

事業内容

財源の確保について、水源税等を研究します。

実施年度

平成21年度

担当部局

総務部税務事務所税務管理課

※ 既存制度 森林総合整備事業

民有林の間伐に対する市単独補助（国費，
県費補助がある場合に上乗せ補助：2，
400千円）

森林整備地域活動支援事業 森林施業の実施に必要な地域における活
動に対する交付金の支給：15，500
千円

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

清流の産業化の促進

清流であることが前提となる産業により、地域の活性化を促進します。

事業名

濁酒特区

事業費

民間資本

事業内容

酒税法に基づく濁酒特区が平成18年度に市域全域に認可されました。

鏡梅ノ木地区・横矢地区で濁酒醸造の予定です。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

環境部環境保全課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

地域再生事業の促進

地域の既存産業の活性化や新たな産業の創出，コミュニティの再生などにより豊かで元気な地域を取り戻し，清流や豊かな森を守り育てる担い手の定住を促します。

事業名

土佐山嫁石梅まつり事業

土佐山中川を良くする会事業

鏡吉原ふれあいの里事業

事業費

民間資本

事業内容

嫁石の梅祭り，オーベルジュ土佐山を中心に地域文化の伝統を伝える伝承館やいろいろの館やホテル祭り，鏡吉原地区の川内神社境内の「ソーメン流し」など定着した事業です。

今後，濁酒特区を活かした濁酒醸造による，新たな事業展開が期待されています。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

地産地消・グリーンツーリズムの推進

日本の原風景の探求や自然と共生した自給自足の生活体験などを通じて、下流や都市の市民との交流を促進し、地域の活力を取り戻します。

事業名

交流促進事業

事業費

0円

事業内容

- ・交流拠点施設等の整備と既存施設の活用
鏡地区：鏡吉原ふれあいの里，梅ノ木公民館
土佐山地区：いろりの館，伝承館，菖蒲ふれあいの里
- ・中山間体験・滞在型観光（交流）の促進
- ・都市部住民との「まちむら交流」を核にした地域づくり運動の推進支援
鏡吉原のソーメン流し，鏡梅ノ木のピザ焼き，ツガニソーメン，イノシシ鍋，コンニャク手作り体験ツアー，土佐山菖蒲の本物を食する会等。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部中山間振興課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

地産地消・グリーンツーリズムの推進

日本の原風景の探求や自然と共生した自給自足の生活体験などを通じて、下流や都市の市民との交流を促進し、地域の活力を取り戻します。

事業名

地産地消推進事業

事業費

平成20年度 445千円（うち計画策定費 300千円）

事業内容

平成17年度策定の「高知市地産地消推進基本構想」に示された高知市型・地産地産を推進し、豊かな食生活が実現できるまちづくりをめざすため、国の新たな食料・農業農村基本計画に位置づけられている地産地消推進計画を平成20年度に策定し、取り組みを進めていきます。

実施年度

平成19年度—平成21年度

担当部局

農林水産部農業水産課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

間伐材の有効活用

間伐材の用途の検討や新たな木材の利用方法、付加価値の高い木材製品の開発等を促進し、間伐の促進を図ります。

事業名

間伐材有効活用支援

事業費

民間資本

事業内容

土佐山地区で、工芸品製作会社が間伐材を有効に活用した、工芸品製作販売を企業化しています。

間伐材を有効活用した工芸製品等の販路拡大を支援します。

実施年度

平成19年度—平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部森林政策課

商工観光部産業政策課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

間伐材の有効活用

間伐材の用途の検討や新たな木材の利用方法，付加価値の高い木材製品の開発等を促進し，間伐の促進を図ります。

事業名

資源培養推進施設整備事業

事業費

平成20年度 5,500千円

事業内容

魚類の定着・増殖と水産資源の持続的な確保を図るため，間伐材を有効利用した木棚漁礁を設置し，漁礁整備を行なうものです。

実施年度

平成20年度

担当部局

農林水産部農業水産課

全体目標

森と海とまちをつなぐ環境軸

計画の構成

人づくり・まちづくり

目標とする姿

「交流・連携・共生」が図られる循環型流域圏の構築がなされること

ランクアップ計画の位置

持続的地域社会

施策名

バイオマスエネルギーとしての活用の検討

木材を資源とした新たな産業としてのバイオマス産業の育成を促すとともに、新たなバイオマスエネルギーとしての活用方法を開発もしくは開拓し、その普及を図ります。

事業名

バイオマス活用支援

事業費

民間資本

事業内容

民間資本によるバイオマスエネルギー化の実現に向け支援を図ります。

竹による森林崩壊が課題となっており、高知市森林づくり検討委員会提言書（平成19年3月）でバイオマスエネルギー実用化の提言もあり、民間との協力・連携により活用化の検討を進めます。

実施年度

平成21年度（平成28年度）

担当部局

農林水産部

事業費

単位：千円

個別事業名	19年度	20年度	計画期間	合計事業費
森林づくり推進事業	512	1,000	—	1,512
水源林用地取得事業	18,000	18,000	—	36,000
水源林整備・管理事業	4,464	4,305	—	8,769
市有林造林事業	10,000	5,000	—	15,000
造林支援事業	12,452	6,899	—	19,351
森林総合整備事業	2,400	2,400	—	4,800
森林整備地域活動支援事業	15,500	12,550	—	28,050
協働の森づくり事業	1,500	3,000	—	4,500
中山間地域等直接支払制度	55,860	56,301	—	112,161
市民農園貸付事業	386	384	—	770
就農研修支援事業	2,400	2,400	—	4,800
中山間農業活性化事業	4,000	4,000	—	8,000
農地保全有効利用事業	75	120	—	195
農業経営基盤強化促進対策事業	90	108	—	198
とさやま開発公社支援	17,470	17,353	—	34,823
環境保全型農業推進事業	1,600	3,000	—	4,600
森林整備推進事業	4,340	—	—	4,340
市民の森整備事業	1,200	26,000	—	27,200
下水道面整備事業費	500,000	500,000	—	1,000,000
アユ遡上流下調査	1,470	1,950	—	3,420
淡水魚増殖事業	3,500	3,500	—	7,000
サンショウウオ保護事業	(400)	—	—	(400)
水車復活事業	—	—	5,000	5,000
源流工石山の自然探訪	451	660	—	1,111
地産地消推進事業	—	445	—	445
資源培養推進施設整備事業	—	5,500	—	5,500
計	658,070	674,875	5,000	1,337,945

※ 事業費として予算化されたものを基本とし、人件費のみの事業は計上していない。

() は民間原資。